

外科系医師体験セミナー(高校生編)

～「命をまもる」医師の仕事の魅力を伝える～

高松赤十字病院では、昨年に引き続き7月20日(土)に医師をめざしている、医師の仕事に興味のある高校生を対象とした医師体験講座を開催し、県内の高校生22名が受講しました。



現役医師が考え用意した6講座を開きました。本セミナーでは、医師の仕事を実際に体験し、香川県で初めて設置したダ・ヴィンチS iの見学、操作体験も行われました。

笠木院長からの「医師に必要なものは『モチベーション』と『信頼される人格』です。

医師の仕事は激務です。この激務を乗り越えるには、医師という職業のイメージにある給与がたくさんもらえるということではなく、患者さんを救ったという達成感です。そして、自分もやったぞという満足感です。医師になるには、そういった強いモチベーションが必要です。また、患者さんに信頼される人格も必要です。机の上での勉強だけでなく、最も効率のいい勉強方法である『体験』で、いろんな体験に積極的に参加し、質問してください。」とのオープニング挨拶で始まりました。

◆手術室及びダ・ヴィンチS iの見学(泌尿器科医師 泉/手術室看護師 貞廣、桑名)



手術用のガウン・帽子・靴カバー、マスクを着用し、看護師の説明を聞きます。



手術前の手洗いの見学

手術室を清潔に保つため、手術用のガウン、帽子、靴カバー、マスクをつけます。手術室内は空調システムにより空気圧を廊下よりも高く維持し、空気の流れが手術室から外の廊下へ流れるようにしてます。これは外部からの雑菌、塵が入らないようするためです。また手術前に医師が行う手洗いの方法も見学しました。



ダ・ヴィンチS iの操作方法を説明する

泉医師



医療機器の技術の高さにびっくり

その後ダ・ヴィンチS iを見学しました。医師が操作席に座り、画像を見ながら、器用にアームの先端でつかんだゴムを棒に通し、細かな作業を見せました。体験では、実際にダ・ヴィンチS iの操作席に座り、次々と立体画像を見ながら、医師のお手本と同じように器用にゴムを移動しました。「このダ・ヴィンチS iは約1cmの穴から立体画像を見ながらアームを使い患部の切除などがおこなえるので、開腹手術に比べ、患者さんの負担が少なく回復が早い。」「癌の根治性が高く、合併症がより少ない。」また「ダ・ヴィンチS iは現在前立腺のみで使用していますが、今後はきっと別の病気でも使用可能になるのでは。」など医師から説明を受けました。学生たちは立体画像に釘付けです。

◆鶏肉の切開・縫合（胸部・乳腺外科部長 三浦）



ほら！左手のピンセットも使って！

鶏肉を使い電気メスで切開や縫合を行いました。電気メスは、鶏肉の下に対極板という金属の板を敷かないと電気が通らないので鶏肉を切ることが出来ません。「実際人間を手術するときも同じようにこういった板を敷いて、電気メスを使います。」と医師の説明を受けながらの切開です。次は縫合です。今まで見たことのない、針糸を持針器で持って縫合します。両手を使った作業に慣れないため左手のピンセットを持つ手が止まると、医師に注意をうけます。

◆顕微鏡下の切開・縫合（脳神経外科部長 香川）

次は顕微鏡下の切開・縫合です。顕微鏡を見ながら、先ほど使用した針糸よりさらに細いものを使用しての縫合です。顕微鏡下での作業は、実際肉眼で見ての作業ではないため、少しの動きでも大きく見え鶏肉に針を通すのも一苦勞です。顕微鏡下の縫合に苦戦している学生に、医師たちが丁寧に教えます。

また実際の脳神経外科で使用される手術用顕微鏡を



医師の縫合を手伝いました。

気分は助手♪

使って、小さな穴の開いた箱の中にある「物」を見るため、上下左右に位置を変え、ピンセットを使用して見つけたおもちゃを取り出すこともしました。

◆病院食の試食（管理栄養士 安田）

本日のメニューはエビフライやスパニッシュオムレツなどに野菜をたっぷり添えた健康食で、中・高校生用の病院食です。みんな美味しくいただきました。食事と、栄養課の安田管理栄養士からの栄養についての講義で、医食同源の言葉どおり、毎日の食事が大切であることを理解しました。



「美味しそうだね〜♪」



「本日のお食事、いかがでしたか？
なんと 950kcal です。」

◆動物の心臓解剖と血管モデルの縫合（心臓血管外科部長 西村）

午後の部はまず心臓解剖と血管モデルを使っての縫合です。医師が豚の心臓を使って、右心室、左心室などを学生に説明しました。2人1組でペアになり縫合する人、助手をする人に分かれて人工血管を縫合します。「血管の縫合は助手が血管をちゃんと押さえないと縫合できません。血管を縫合するのは、時間との勝負」と医師が手本をみせた縫合止めの早さに学生たちはびっくりです。



「右心室の次は、何かわかる？」

◆整形外科手術体験（リハビリテーション科部長 西岡）



「いいね〜。うまいね。」

将来整形外科に是非。」

整形では、人体模型にギプスを巻き、カッターを使ってギプスを切りました。「患部に布をあて、綿を巻き、ギプスを巻きます。手で何回かこするとギプスはあっという間に硬くなります。あとはカッターを使ってギプスを切ります。このカッターは手にあたっても切れないため、安心ですが慎重にやさしくお願いします。」

器用にカッターを使ってギプスを切る学生を発見！！医師たちも学生たちに期待！！

そのほか、模擬骨にドリルで穴を開け、プレート（金属）をネジで固定する骨折手術の体験をしました。

◆鼓膜観察等（耳鼻咽喉科部長 森）

顕微鏡を使って、鼓膜観察を行いました。顕微鏡を、上下左右前後に動かしての観察です。鼓膜は外耳道に対して垂直ではなく、斜めにしかも前方がより深部に付いています。耳小骨も透けて見えます。この骨は鼓膜の振動を伝える骨です。



「見えた。見えた。」

◆ 「医師の1日」・シンポジウム「医師と語ろう」



消化器外科の森岡医師より「医師の1日」についての話がありました。その中でチームを組んで医療に取り組むため、協調性やコミュニケーション能力を身につけることが大切であるという話がありました。続いて若手医師3名との「医師と語ろう」では医師たちが外科系を選んだ理由が、手術で患者さんが治せるところにあったことが分かりました。その後時間が

経過すると、その気持ちがどう変化するか30年以上たった西村医師にも話を聞きました。患者さんが高齢になり、手術時間も手技も難しくなったが、やりとげた満足感や達成感はいまでも感じるとのことでした。時間が経過しても医師としての思いは変わらないようです。

終了後のアンケートでは、「医師になろうという気持ちが高まった。」「外科の仕事にも興味を持った」などと記入されており、医学部へ進学し、医師となるモチベーションが高まったようでした。

<プログラム>

- 9:25 ~ 9:35 病院長あいさつ
- 9:35 ~ 9:50 主旨説明等
- 10:00 ~ 10:15 手術室前ホールにて、ガウン、キャップ等の着用
- 10:20 ~ 12:00 3グループで体験（泌尿器科・外科・脳神経外科）
・ 手術室、ダ・ヴィンチS i 見学 ・ 鶏肉の切開と縫合 ・ 顕微鏡下の切開と縫合
- 12:00 ~ 12:05 3グループごとに記念撮影
- 12:10 ~ 13:00 病院食の試食
・ 栄養に関するセミナー「栄養は医療の一環」管理栄養士
- 13:15 ~ 15:00 3グループで体験（心臓血管外科・整形外科・耳鼻科）
・ 動物の心臓解剖と血管縫合 ・ 整形外科体験 ・ 耳鼻科体験
- 15:10 ~ 15:25 医師の1日（森岡医師）
- 15:25 ~ 16:00 シンポジウム
胸部・乳腺外科（法村医師）、心臓血管外科（川村医師）、産婦人科（高倉医師）、
- 16:00 ~ 16:15 アンケート記入